

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1474200324	事業の開始年月日	平成16年6月3日
		指定年月日	平成16年6月1日
法人名	特定非営利活動法人グリーンハウスえがお		
事業所名	グループホームえがお		
所在地	(243-0426) 神奈川県海老名市門沢橋 4-1-1 0		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和2年12月15日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月26日

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年は、コロナ禍の影響で、色々な意味での制限がずっと続いている中で、例年行っている行事(食事会、いちご狩り等)をどのような形でできるか?何ならできるか等々、利用者の方に楽しんでもらう工夫を試行錯誤しながらの実施であった。『いちご狩り』が出来ないならいちごを箱でたくさん買って来てお盆に載せ好きなだけ食べてもらった。『カナサンファーム』にいけないうら、『サァーティワン』のアイスをたくさん買って来て満足のいくまで食べてもらった。現地に行かなくても『みんなで囲んで食べると美味しいね』とは利用者の言葉です。8月、9月とコロナが少し落ち着いてきたので、『えがお祭り』なら外での開催ならできるかもと方向転換。近隣には告知せず家族と利用者、職員等でこじんまりとしかし恒例のどら焼き、焼きそば、トン汁、甘酒は外せないよねと前日から準備し久しぶりの家族との再会を喜びながら昼食を共にし一緒にバザー用品を購入したりと楽しいひと時を過ごすことができました。そのためにも一人一人を大事にし理解しどう信頼関係を築いていくか確認しあっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年2月12日	評価機関 評価決定日	令和3年5月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR相模線「門沢橋」駅下車 徒歩1分、駅から見えるオレンジ色の2階建て建物で、1ユニットのグループホームです。車では、圏央道海老名インターチェンジより海老名運動公園方面へ7分、門沢橋駅前を右折した直ぐの場所にあります。

<優れている点>
職員は、一人ひとりの訴え、発する言葉に耳を傾け、思いを受け止める対応をしています。利用者の発する言葉は「答え」だと共通認識を持ち、発する言葉の裏に隠れているものは何か?他の利用者との関係性はどうか?今本人が置かれてる現状にどうしたいのか?どうしてほしいのか?まさに「答えをくれている」と判断し、その人に添った支援、声掛けすることで自己決定に繋げています。利用者の発した言葉はそのまま個人記録に残して検討しています。春夏秋冬、季節を問わず天気の良い日は全員で散歩に行くのを日課にしています。駐車場にベンチを準備し、全員が揃うのを待って出掛けています。散歩中に小さい子に会ったり可愛い花を見つけたり、鳥のさえずりを聞いて季節を肌で感じ取っています。利用者同士で手をつなぐ人、車いすを押してくれる人など、みんなで協力して全員で散歩に行けるよう支援しています。

<工夫点>
毎日の掃除、洗濯、家事全般は、利用者と職員とで役割分担をしながら一緒に行っており、暮らしを共にする者同士の良好な関係を築いています。利用者それぞれが役割を持つことで本人の存在価値、満足感、自信、生きがいに繋がっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームえがお
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	年度初めのミーティング時に、利用者に対してどんな目標を掲げてどう関わったかを自己分析し、一人一人発表し合う。そこから見えてくる利用者への関わり等について意見交換する。そして事業所理念の一つ一つの内容、意味を確認することで今年度に向けての利用者への関わり等について共有認識をもちそれぞれが目標を挙げて取り組んでいます。	事業所理念を事業所内に掲示しています。年度初めのミーティングで3項目の理念、一つひとつについて内容とその意味を確認して周知を図り、理念に沿った支援を実践しています。人権を尊重し、利用者それぞれが役割を持ち本人自らの居場所を確認して家庭的な雰囲気の中で生活してもらう支援を心掛けています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月行っていた健康体操、ウクレレ演奏等の催しは、コロナ禍の影響で中止せざるを得ない状況である。いい形で地域との距離が近くなった時にこういった状況で残念で仕方がない限りであるが、ホーム内のみで行った『えがお祭り』『えがおの集い』時の祝い膳をいつも世話になってる近隣の方々に配るなど繋がりを保つ交流を続けています。	コロナ禍で今年度の地域との交流は中止を余儀なくされています。コロナ禍以前は地域行事や事業所行事を通じて地域との交流を深めています。今年度は事業所の「えがお祭り」や「えがおの集い」の時の祝い膳を世話になった近隣の人々に配るなどして交流を継続しています。日中の散歩も継続しており、近隣住民と声を掛け合い、畑の花や野菜を貰ったりしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	9月から一時中止していた健康体操を再開しているが、コロナ感染が怖く、地域の方の参加は声をかけられない状況であるが天気の良い日の散歩は、継続しており顔が合えばお互いに声掛けあい、畑に咲いている花、野菜等を頂いたりしながら交流を深めえがおの人たちの理解を深めています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍を理由に開催する事はありませんでした。今振り返ると、3蜜を避けた工夫で実施できたのではないかと反省しきりです。他の事業所等のコロナ対策の情報をしりたいです。	コロナ禍で今年度は運営推進会議は実施していません。コロナ禍以前は地域包括支援センター職員、市役所職員、民生委員、ボランティア、家族、利用者などが参加し、定期的に開催しており、意見や提案、アドバイスをしています。議事内容はミーティングで職員と共有しています。	コロナ禍で運営推進会議の未実施はやむを得ないことですが、書面をもった開催（書面会議）に替えることも期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護受給者の方の利用もあることから、利用者の様子、行事等の取り組みの報告等の情報交換を実施しています。市担当職員が訪問歯科時の様子を見てみたいと、受診してる時間帯に来られて一人一人の受診内容を確認されてる姿勢に頭が下がりました。	生活保護受給者の利用もあり、生活支援課と連携を取っています。市の担当職員が口腔ケアの必要性を知るため、訪問歯科時に来所し利用者の受信内容を見て確認しており協力関係を築いています。利用者の暴言や暴力などが出た時の対応について、地域包括支援センターや行政に相談し、アドバイスをもらうなどしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は、人権擁護の観点から問題があるだけでなく高齢者の生活の質を根本から損なう危険性を有する事を理解しています。利用者の今置かれてる気持ちを常に考えることで、防犯上の施錠以外は無いと考えてます。夜間帯以外は施錠せず玄関は開放してます。	管理者を始め、職員は身体拘束の弊害を理解し、日中、玄関は施錠していません。外に出たい要望の人には見守り対応しています。ミーティングでスピーチロック（言葉による拘束）について問題提起し、支援を振り返り確認し、身体拘束のない支援を実践しています。	身体拘束適正化検討委員会の開催がないので、委員会メンバーを編成し、開催されることが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	圧迫痕、打撲痕等どのように出来たのか確認し合い、介助する時の手の位置、転倒防止等の介護の仕方等の意見交換をしています。介護者側の介護ではなく利用者の状況を的確に把握しそれに沿った対応に心がけてます。必要以上の大声の声掛けは、利用者の不安をあおる事になると考えお互い注意してます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用され後見人さんが付いてます。日々の生活の中で、変化していく体調等の様子、それに伴う対応法等を伝達してます。毎回本人にも同席して頂き、会話を交わすことで様子を確認して頂き支援活用に生かしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者家族、本人の入所に対する不安、自責の念、葛藤等の思いをしっかりと受け止める事、受け入れる職員も今を取り巻く状況を共有認識し其の思いを大事にし自然な形で入所できるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	何気ない利用者同士会話の中から本人の今の想いを感じ取り何か不安があるのか、不満があるのか、満足してるのか、隠れた思いを探ります。そして会話の内容から、その人が今いる時代が見え隠れします。その会話の内容を膨らませる事で懐かしい母親の想い、兄妹の想い、そして今後どうしたいかが顔を出すことがあります。	コロナ禍以前は家族の面会時や運営推進会議、家族会などで意見や要望を聞いています。現在は電話のやり取りや毎月の家族への報告でコミュニケーションを図っています。意見や要望には速やかな対応を心掛け、運営に反映させています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティング等で意見交換をしています。必要に応じて個人面談を実施しています。	朝夕の引継ぎや毎月開催のミーティングで職員の意見や提案を聞いています。個人面接を必要に応じて実施しています。職員から日常の記録の仕方について意見があり、ミーティングで協議しています。新利用者決定の際には、事前に職員に利用者情報を伝え理解を得ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月1回の定例会でお互いの情報交換をしています。職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し職員の希望に添えるように事務方に進言しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティング時に、個人のケースを取り上げて現状を確認します。指示が入らない方、トイレが繋がらない方、パットを入れさせてくれない方等々の対応法について意見交換して共有認識を实践へと繋げていきます。その実践からの効果が自信となり介護に対する意識を高める事になると考えます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年コロナ感染対策で終始した様に思います。11月にコロナウイルス感染症への対応についてのWEBでのセミナーに参加し職員への2次研修を行って情報の共有をおこなっています。また認知症について改めて勉強する機会が持てた職員からの研修を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	誰も知る人がいない中に入る不安は相当の事であると考えます。今までの生活習慣を大事にしながら何に関心があるのか、好きなことは何か等々聞きながら気の合う利用者間の関係づくりと居場所づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所するにあたり、本人にとって本当にいいのかと自問自答され迷惑をかけるのではないかと利用を躊躇されていた家族が、生き生きとした顔つきに変わってみるみる元気になる様子に『ここに来て良かった』とのお言葉をいただいた事に『えがお』の日常生活と役割分担等の取り組みを評価していただいたと思っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	すぐ利用したいのか、今後利用したいのか、そもそもグループホームとは何なのか等等、相談内容を見極め本人が必要とする情報を提供したり支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎朝の掃除、洗濯、家事全般は、利用者と職員とで役割分担しながら一緒に行います。利用者一人一人がそれぞれの役割がある事で、自信に満ちた生き生きとした表情をみせてくれます。困ってる利用者にさりげなく手を差し伸べる様子を見るにつけ私たち職員が助けられていると実感する毎日です。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	訪問時にイキイキとしてる母親を見て『ここで本当に良かった。母は幸せです』と家族からの言葉を頂きます。介助する度に『ありがとう、ありがとう』と感謝の言葉を聞くにつけ身の引き締まる思いです。職員の方がありがとうの気持ちでいっぱいです。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	えがおに来て6年経つのに、一緒に団地に住んでいた方が、時折電話を下さる。会話をしている様子を見聞きするにつけ馴染みの方の絆の強さを感じこの関係を大事にしたいと思います。	馴染みの友人や知人の来訪時には、本人の居室に案内しゆっくりと過ごせるように支援しています。また、馴染みの宗教の定例会への参加を支援したり、利用者の希望に応じ、日帰り旅行や北海道や沖縄、東北などへの旅行にも同行支援をしています。電話や手紙のやり取りを支援し、馴染みの関係継続を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方或いは、話しが合う方達の席が近くなるように配慮しています。個を大事にし自分の居場所を決めてる方に対しては、その居場所を大事に好きな本をさりげなくそばに置いたりしています。場がもてない様子の利用者に対しては、仲間に入りやすいよう職員が配慮します。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ADL低下の低下に伴いここでの生活が難しくなってきた方に対して、早めに特養等を紹介します。家族、本人、職員等で今後の生活についてどこがいいのか意見を交換しながら納得のいくように進めていきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	12月に入るとみんなはどうするのか？と正月の心配を口にされる。『家に帰っても親はもういない。自分が帰る事で娘に気を遣う。だからここで正月を迎える』とそこで皆さんとここで一緒に正月を迎えますとみんなに聞こえるように大きな声で言います、すると皆さんホッとした表情をみせられます。心配される利用者は他利用者の代弁者と捉えています。	朝のお茶の時間、3時のおやつの時間での会話や利用者同士の何気ない会話の中から一人ひとりの思いや意向を受け止めています。また、長年共に過ごしてきた利用者からのちょっとした言動から察知することもあります。意思表示が困難な人は表情や仕草、何気ない言葉から把握するように努めています。把握した思いや意向は日誌に記録し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始時、本人、家族そして担当の介護支援専門員から、今までの経過、本人、家族の想い等の情報収集しその内容を職員間で共有します。その内容は、ほんの一部です。日々の言動からその方を知り、確認しながらプランに繋げていきます。検討し新たな環境にスムーズには入れるような関係づくりを考慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子、言動の変化とその裏に隠された思い等々を個人記録に記録することで現状を把握しミーティング時に職員間で共有しています。そこで意見交換し介護サービスに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の生活の中から利用者のADL変化そこから解決すべき問題点、対応の仕方等等が見えてくる。それを月1回のミーティング時に問題点を一つ一つ検討し意見交換しながらその方に沿った対応法を模索しています。	毎月のミーティングで利用者の現状、ADLの変化を検討し、意見交換を行っています。ケアプランの作成に当たっては、本人、家族の意向を入れ、医療関係情報を勘案し作成しています。ADLの低下や急変時にはその都度見直しを行い、現状に即したケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の生活の中での利用者との関わりの中で本人の発する言葉が答えだと思ってます。介護する場面で発した利用者の言葉をそのまま記録しその時の想いを職員間で共有します。そしてそれがその方が希望する介護法であると捉えています。答えは利用者が教えてくれます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	定期通院は、家族が行っているが今年は2月頃からコロナ感染の恐れから定期通院は、止めてかかりつけ医に受薬、注射等の依頼が家族から何件か頂き現在進行中です。緊急時は、家族に確認しながら受診送迎等の支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	市の広報紙等から、参加できる物、参加したい情報を得ていますが今年は、コロナ禍から、外出は避けお弁当を買って来て外でランチしたり周辺を散策したりとしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科Drと月4回の歯科医の往診をお願いしています。どんな小さなことでも気になる事が言えるように普段から冗談を言い場の雰囲気と和ませるように務めています。健康診断の結果も普段の様子をよく分かっているかかりつけ医に診てもらっています。	入居時に利用者の希望でかかりつけ医を決めています。以前からのかかりつけ医を継続している人も、提携医をかかりつけ医としている人もいます。提携医や訪問看護師とは24時間連絡可能な体制です。外来受診は職員対応で家族と情報共有をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週見える訪問看護師には職員が案外見逃してる事をキャッチし反対に気づきを教えて下さることがある等、相互の信頼関係が出来ています。気になる事を相談し、情報を伝え看護師から往診のDrに報告することで早い処置が受けれる体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送で入院された際に発生状況、えがおでの普段の様子などの情報を伝え状況が許す限りえがおと同じような援助をお願いをしました。また帰れる条件などを双方で確認しあい早い退院に向けての協力をしています。特に入院の必要がない場合は今後のフォローをどうしたらよいか等の助言を頂きそのように動いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	身体機能の重度化してきている場合、随時家族に報告、或いは実際にホームに来て頂いて本人の様子を確認してもらい今後の対応について双方が納得しながら進めています。	利用者の高齢による心身状態の変化、様態の悪化時の対応については、契約時に説明しています。重度化した場合は、今後の対応について家族などと話し合いを重ね、特別養護老人ホームを紹介することもあります。がん末期の利用者の対応をした経験もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故或いは急病が発生した場合についてのマニュアルを作成し対応の確認が出来るようにしています。消防署から講師を依頼して応急手当の指導を受講しています。(年に1回恒例)が、毎年やっても忘れて居たり又新たな発見があり有意義な時間となっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昨年コミセンに避難した経験から必要物品の補充、当日の動きの見直しをすることができました。そして定期的な避難訓練の必要性も身をもって感じている所です。今後は地域との協力体制を密にしていけることが課題です。	河川氾濫、火災避難、消火、通報、夜間想定等の訓練を実施しています。昨年は訓練ではなく、実際にコミュニティセンターに避難しています。その際に隣人の協力が得られています。倉庫に備蓄品を確保し、品目や賞味期限等を管理しています。	毎日の散歩等で近隣住民とは顔なじみとなり、利用者の行方不明時には一緒に探してもらったりと協力的です。今後さらなる地域と災害時の協力関係構築が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の訴え、発する言葉に耳を傾け思いを受け止める対応をしています。発する言葉の裏に隠れてるものは何か、他利用者との関係性はどうか、今本人が置かれてる現状にどうしたいか、どうしてほしいかとまさに答えを下さっていると判断し其の方に添った援助、声掛けすることで自己決定につながるように関っています。	利用者の発する言葉は「答え」だと、職員は共通認識しています。利用者の発した言葉はそのまま個人記録に残して検討しています。職員はプライバシー・人権擁護に関する研修に参加しています。個人情報の入っている書類は施錠の出来る書庫に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段から会話ができる空間を大事にしています。お茶等を飲みながらの何気ない会話の中から本人の想い、置かれてる状況をキャッチするようにしています。行動に入る前に説明し納得して頂いてから行動に移しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お茶の時間等に今日はいつもの発語が少ないなどか表情が冴えないな落ち着かなくて動き回ってるな等々の一人一人の利用者の言動を観察し便は出てるかな夜は眠れなかったのか他利用者との関係に何かあったのか等々いつもと違う原因を模索しながら本人により添う対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	常日頃からお出かけ用の衣類（おしゃれ着）を別に保管しており敬老会などの大きな行事の時、出かける時等にその衣類を準備するととても喜ばれ表情がイキイキしてきます。普段でも胸にブローチを付れたりいつもと違う洋服を着ているときは、『よく似合います、素敵です』と声かけて自信を持つて頂ける対応をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べる事は、一番大事であると捉えています。3度の食事は勿論、おやつ時も全員が揃うまで待ち、一緒に頂いています。肉はダメ、コーヒーは飲まないとか言っていた方がいつの間にかみんなと一緒に食べてる。空腹だから食べれるというのではなく、心身共に安定した環境を作るのも私たちの仕事であると考えます。『みんなで食べると美味しいね』とは利用者の言葉です。	食事は職員が手作りしています。利用者は大根をおろしたり、盛り付けやお茶入れ、テーブル拭き、食器洗いなど、職員と一緒に準備や食事、片付けをしています。誕生日会は手作りの梅酒で乾杯し、赤飯やケーキで祝っています。厚木花火大会に合わせて開くビアガーデンには毎年参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	両手がむくんでいながらも自分で食べようと箸を使い口に運んでる姿を見せてもらいながら『生きる事』のすごさをいつも目のあたりにしています。いかにしたら食べやすいか器の形状、位置、姿勢等を探り職員間で共有しています。介助する事の是非を問われているような気がします。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	生命を維持していくための入り口である口腔ケアが一番大切であると考えます。痛がってさせてくれない方には、小さくやわらかめの歯ブラシを用意し座った方が拒否が少ない事を介助する中で分かってくる。毎食後のブラッシングを継続することでグラグラしていた歯が回復し介助もスムーズにさせる様子を見るにつけ毎食後の口腔ケアの必要性を実感しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	便失禁し、自らその辺にある衣類で始末し部屋中が便だらけにする方の『汚して恥ずかしい』『誰にも知られたくない』との気持ちを大事にしながら私達が手伝うからSOSを出してねと根気よく声かけ始末をさせてくれたら教えてくれてありがとうと声をかけ続けました。今では、『ねーねー』と呼んでくれます。そして『ありがとう』と頭を下げられます。職員を信頼しつつあるかなと嬉しくなります。	排泄チェック表を利用して利用者の排泄パターンを掴み、声掛け誘導しています。その結果、失禁が無くなり安心パンツから布パンツに改善した利用者もいます。利用者がそわそわして落ち着かない時、不機嫌な時など「トイレですか」とそっと声掛けをしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	落ち着きがない、食欲がない、イライラしていると便は出てるかと確認します。そして水分が摂れているかを重視し水分を摂らない方は何だったら飲むのかどうしたら飲んでくれるか食事前だったら飲むのか等々試行し結果を共有していきます。毎朝のラジオ体操と散歩、風船バレー等々の身体を動かせる場面を作っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	日々変化している利用者はどう声掛けしたら繋がるのか、タイミングはどこなのか一人一人を見極めて入浴に誘います。浴室に案内しても物が散乱しているとそちらの方に意識がいき入浴に繋がらない方、なかなか脱いでくれない方々とその方のタイミングの合わせ方の難しさを感じています。	週5日を入浴日としています。自立している利用者は浴室開放で毎回入浴している人もおり、個々に応じた入浴支援をしています。浴室、脱衣室は温めて温度差が無いように配慮しています。また、脱衣所はスッキリと片付けてスムーズに入浴できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	職員サイドの流れで声をかけると指示されたと思うのか頑として動きません。本人の様子を観察しどの場面でどこのタイミングで声をかけるか、手をだすか見極めた対応が必要です。そうすると本人の意思を尊重してるので穏やかです。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ケースの中に使用してる薬の目的や副作用等を明記しておりいつでも確認できるようにしています。薬の変更等は、日誌に記録し全職員に周知しています。錠剤を口の中に入れても、異物と捉えて吐き出す方、うまく呑み込めない方等には、粉状にしヨーグルトに混ぜたりするなどその方に合わせた形状とし確実に服用できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	『私は算数がいい』『私は国語がいい』『塗り絵は何色に塗ったら良いかわからないから嫌だ』等々自己主張されます。私達は難しい内容は避けてできる事を見極めて準備します。そして採点します。出来た事に喜びと自信が溢れています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	春夏秋冬天気の良い日は全員で散歩に行くのを日課にしています。散歩中に小さい子に会ったり可愛い花を見つけたり鳥のさえずりを聞いて季節を肌で感じ取ります。玄関先ですぐに『空気が美味しいね』と言う感性にはびっくりです。駐車場にベンチを準備し、全員が揃うのを待っています。手を繋ぐ方、車いすを押して下さる方等々とみんなで協力して全員で散歩に行けるように援助しています。	外出時に車いすの利用者もいますが、他利用者に車いすを押してもらい、全員で散歩に出かけています。今年はコロナ渦でいちご狩りなどに行けない為、いちごやアイスクリームを沢山買って来て、みんなで好きなだけ食べるなど工夫しながら楽しんでます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	毎月2千円の小遣いを預かり其中で歯磨き粉、湯のみ茶碗等の小物を必要に応じて自分で好きなものを選んで購入できるように支援しています。紅葉狩り、お祭り時も、個人でお金を持ちたいものを自分で選んで自分で購入できる支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者からの電話かけたいとの希望に対しては、電話番号を渡し押す等の援助をし話せる場面を支援しています。手紙のやり取りは難しくなってきた方に対しては内容を説明したり、手紙がいつでも見られるように自室の見える位置に貼ったりの援助をして大切な人とのやり取りを支援しています。	/		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに季節の花を飾ったり季節に添った図案を用意し塗り絵等を楽しんでいただいている。散歩時に道端に咲いている花を摘んでは自室に飾っている方もいます。ソファにカバーをかけクッションを置いたり温かな居心地の良い空間づくりを心がけています。	リビングには花や利用者と一緒で作成したカレンダーを飾り、テレビ横にはブックラックを置き、好きな本が見られる空間になっています。食事、湯茶のみ、手遊び、ゲームなどみんなが集まれるように椅子の位置を変え、みんなの顔が見えるように工夫しています。	/	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2階の共有空間（リビング）で計算問題をする方、塗り絵をする方、本の読む方等々自分でやりたい物を選んで取組んでいられます。計算が終わると『採点して』と出来具合を確認したり利用者同士和気藹々と過ごせる居場所作りとを工夫しています。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた寝具、筆筒、ソファ等を持ち込み寝る前は本を読む習慣の方は本を持参、壁には動物の写真を貼ったり可愛いぬいぐるみを置いたり、見慣れた物に囲まれたその人らしい居室になっています。散歩時には、道端に咲いている可愛い花を摘んできて部屋に飾っている方もいます。	ベッド、整理ダンス、洋服ダンス、エアコンは備え付けです。今まで使っていた馴染みの物を持ち込んだり、写真や花を飾ったりしてその人らしく居心地の良い居室になっています。パソコンを持っている利用者もいます。職員は毎日利用者と一緒に掃除をしています。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所が分からない利用者にトイレマークを入れ表示し分かりやすいように工夫したり段差のある所には、目立つ色のテープで知らせたりと安全性と本人の機能を大事にした関わりをしています。	/		

2020年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム えがお

作成日： 令和3年5月17日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束をしないケアの実践から・サービス指定基準における禁止の対象となる『具体的行為を正しく理解する事』に向けて勉強会を開催していない。	具体的行為を正しく理解し身体的拘束をしないケアの実践に取り組む。	①身体拘束適正化検討委員会のメンバーの編成する。②適正委員会を開催し、具体的行為を正しく理解する勉強会とする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月